『世界でいちばん素敵な鉱物の教室』
三才ブックス（２０１８年）

「鉱物」は、永い年月をかけて地球から生み出された大地の結晶です。古くから宝石・美術品として愛されてきました。古代中国では不老不死の薬とされていた辰砂（しんしゃ）、マグマの中でできる世界一硬いダイヤモンドや、クレオパトラに愛された「宝石の女王」エメラルド、宮沢賢治の作品に登場するアマゾナイトなど、80 種類の鉱物を優しく解説しています。宝石で作られた部屋や、鉱物がみられる博物館も紹介されています。鉱物の魅力を感じてみましょう。

『鉱物のレシピ　鉱物図鑑と結晶づくり』
さとう　かよこ/著　玄光社（２０２３年）

色々な実験道具のある研究室や、薄暗い博物館の雰囲気に神秘的なロマンを感じませんか？長期間かけて地球が育てた鉱石と、短期間で人工的に育てた結晶を美しい写真と供に紹介しています。鉱石の素敵な飾り方や、少し手間はかかるものの、様々な結晶も作れます。例えば、ミョウバンと水を温めながら混ぜると小さな結晶ができ、それを育てていくと結晶がつながって大きくなっていくのです。身近な材料を使った自由研究としてもオススメの１冊です。

『テディが宝石を見つけるまで』
パトリシア・マクラクラン／著
こだま　ともこ／訳　あすなろ書房（２０１７年）

犬のテディは、一緒に暮らしている詩人のシンバルさんから詩や物語を読み聞かせてもらったことで、詩人と子どもとだけ話ができるようになりました。ところが、シルバンさんはテディに「きみが、宝石をひと粒かふた粒見つけられるといいな」と言い残していなくなってしまいました。

残されたテディは、ある激しい吹雪の日、迷子になった男の子ニッケルとその妹のフローラに出会い、２人を助けるため自分の家へ案内しました。子どもたちは、無事に家に帰ることができるのでしょうか。そして、テディは宝石を見つけられるのでしょうか。

『きらきら鉱物菓子の作り方』
ハラペコラボ／著　KADOKAWA（２０２１年）

みなさんは本物のような鉱物菓子を見たことはありますか？琥珀糖（こはくとう）というお菓子で作られています。琥珀糖をつくるのに必要な材料は、グラニュー糖、粉寒天、そして水の３つです。そこからどのようにして本物のような鉱物菓子が出来上がるのでしょうか。それは色をつけた琥珀糖を、独特な切り方をすることで完成します。この本を読んで、気になる鉱物菓子や自分だけの鉱物菓子を作って楽しんでください。また、最後にはアレンジレシピも載っているので、お気に入りの食べ方が見つかるかもしれません。

『水晶庭園の少年たち』
蒼月　海里／著　集英社（２０１８年）

中学生の樹（いつき）の家には蔵があり、そこには樹が中学生になる前に亡くなった、お祖父ちゃんの鉱物のコレクションがたくさん収められている。樹は、小さいころから一緒にいた愛犬のメノウを亡くしてから数日、学校をやすんでいる。そんなある日、蔵で雫（しずく）という少年の姿をした日本式双晶（そうしょう）の精霊である石精（いしせい）と出会う。石精に導かれ、鉱物を通した不思議な経験と、紫水晶（アメシスト）・蛍石（ほたるいし）・橄欖石（かんらんせき）・緑泥石（りょくでいせき）・ローズクォーツなどの鉱物の魅力がいっぱいつまったファンタジーです。あなたも「鉱物沼」の深みにはまってみませんか。

『わが家は幽世の貸本屋さん　黒猫の親友と宝石の涙』
忍丸／著　マイクロマガジン社（２０２０年）

幽世（かくりよ）で気が遠くなるほどの時間を過ごした老猫は言いました。「この世で最も美しいものを知っているか。それは死の間際に流す人間の涙。その美しさは宝石に喩えても遜色はない」。話を聞いていた黒猫は悲哀、絶望、恐怖で彩られた涙を美しいと評するなんて趣味が悪いと思いました。黒猫は、人に寄り添っていた時のことを忘れず、老猫が見ることはなかった温かい感情で彩られた涙を見たいと思いました。

幽世の貸本屋を舞台にあやかしと人間の交流を描いた作品です。